

第2章 認知症高齢者に対する支援の充実

現状と課題

人生の最期まで尊厳を保ちながら自分らしく生きたいと誰もが望むことですが、この願いをばみ、深刻な問題になっているのが“認知症”です。本市においても認知症の高齢者は年々増加しており、今後も増加していくことが見込まれることから、認知症高齢者が尊厳を保ちながら、住み慣れた地域で穏やかな生活を営み、家族も安心して暮らしていける環境を整えていくことが必要です。

加えて、「自分らしく生きたい」という意志を尊重するためにも、認知機能や意識レベル低下などにより判断能力が著しく損なわれた場合の意志を、自ら主体的に示しておくことは重要です。

現在、本市では、認知症の方が安心して暮らせるよう、認知症に対する正しい知識を身につけ、本人及びその家族を、地域で温かく見守り支えるための「認知症サポーター」の養成を推進し、年々、サポーター数は増加しています。

今後も、認知症予防事業を進めるとともに、たとえ認知症になっても、その人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、そして主体的な生き方を守るために、介護家族をはじめ地域住民への知識の普及・啓発や地域での見守り体制づくりをさらに進めていく必要があります。

重点施策

1 認知症高齢者に対する支援の充実

施策の方向

1 認知症高齢者に対する支援の充実

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症に対する差別や偏見をなくすため、認知症に対する正しい知識の広報・啓発に努めます。

認知症の早期発見・早期対策が重要であることの周知を図ります。

将来、直面することが予測される介護や治療法、告知や延命処置、後見人などに関する意思を表すことの必要性を周知していきます。

認知症高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、地域のネットワークを構築し、認知症高齢者の見守り体制を構築します。

ひとり暮らし高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、民生委員等と連携を図り、地域の高齢者の現状を把握しながら、地域における見守り体制を構築します。

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り支援する「認知症サポーター」の養成を推進します。

サービス・事業の展開

徘徊高齢者等早期発見システム事業【地域支援事業：任意事業】

事業内容	認知症の高齢者を早期に発見するための「位置検索機」を助成します
対象者	認知症高齢者
利用料	初回加入料金及び充電用付属品の購入費を助成します

認知症サポーター養成講座

事業内容	認知症の理解と支援者の輪を広げるための講座を開催します
対象者	中央市民

健康教育

事業内容	自らの生活や生き方に関心を持ち、意思表示を示す重要性を伝えます
対象者	中央市民